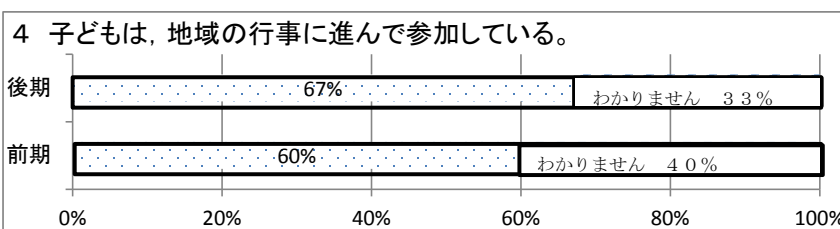
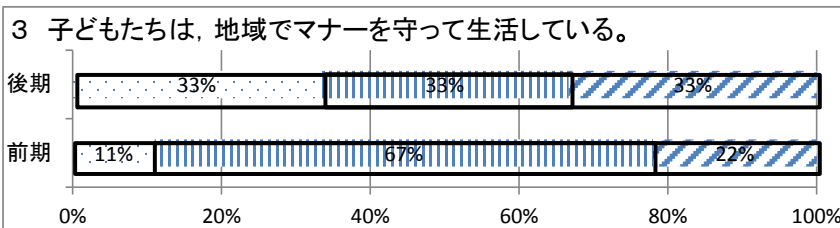
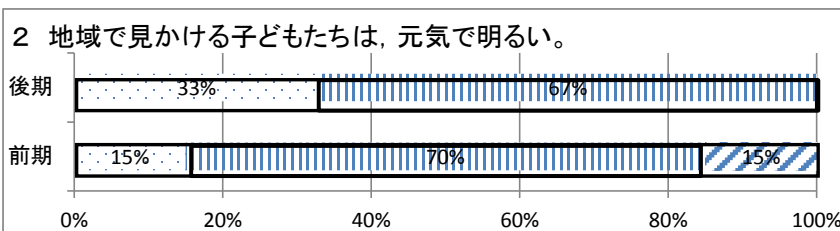
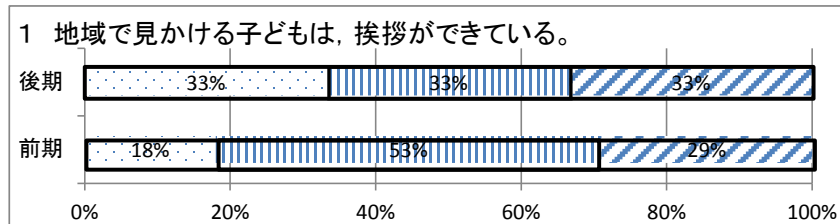




地域の方々からのアンケート結果



《1 あいさつについて》

- 挨拶は学校内外を問わず、日常生活の中で心を通わす大切なものです。下校時の挨拶や教室での挨拶・返事などは進んでできている児童が増えています。朝の集団登校での「おはようございます。」も以前に比べると少しずつではあるがよい挨拶が返ってきているように思います。

《3 安全・マナーについて》

- 信号の無い横断歩道や交差点では、左右を確認しないまま渡る子どもの姿を下校時によく見かけます。車を運転している方が子どもに気付き、スピードを落として安全に渡れるよう気をつけて走っているのに、子どもは車が止まってくれるのが当たり前のように思っているようにも見えます。どれだけ危険を感じているのか心配になることがあります。

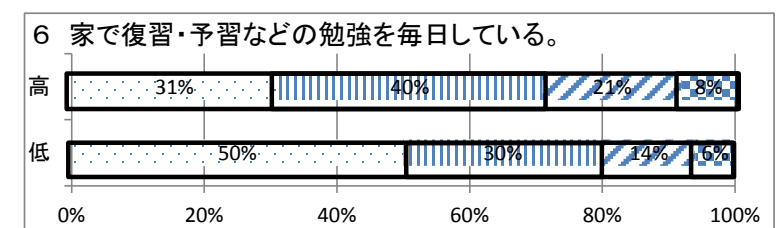
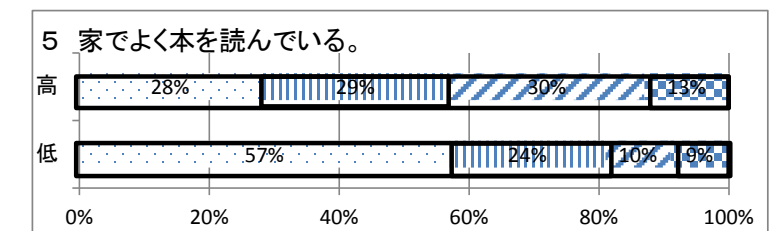
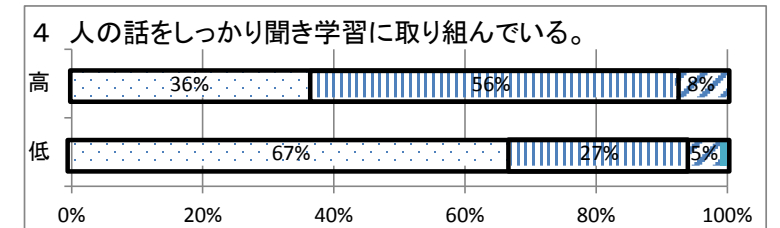
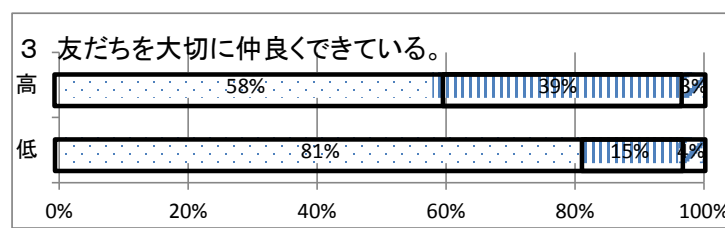
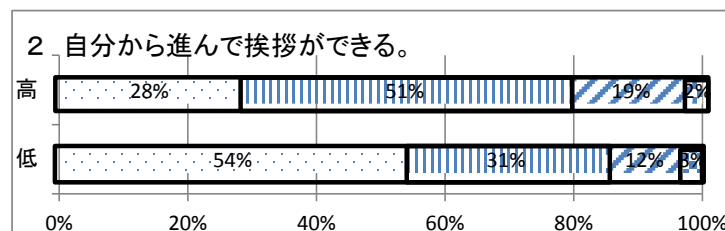
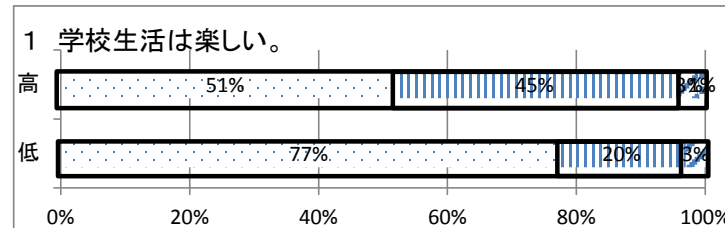
《4地域の行事への参加》

- 板橋まつりをはじめ、親と子の秋のつどい・サマーキャンプや少年補導主催の行事等に大変多くの児童が参加しています。

子どもの振り返り

高...4・5・6年
低...1・2・3年

よくできる 大体できる あまりできていない できていない



子どもの振り返り より

1 学校生活は楽しい

- 全校でほとんどの児童が「楽しい」と答えています。特に高学年の児童は前期に比べて数%ではありますが上がっています。ただ、「学校生活はあまり楽しくない」と答えている児童もまだ多いです。子ども自身に日々の学校生活を楽しいと感じられるように教師が日々の授業を改善・工夫して学力を保证していくことや、保護者の皆さんや地域の皆さんと連携し、あらゆる場でよりよい人間関係を築けるよう力をつけさせていかなければなりません。すべての児童が明日を待ちわび、顔を輝かせて登校できる学校にしていきたいと思います。

2 自分から進んで挨拶ができる

- 前期同様低学年、高学年ともほとんどの児童が「自分から進んで挨拶ができています」と答えています。児童の意識と大人（教職員）との認識の差が大きいものの一つであります。児童は、教室での朝の挨拶や授業中の返事、下校時の挨拶などは進んでできていると振り返っているようです。いつでもどこでも気持ちのこもった挨拶ができるようになって欲しいと思います。

4 人の話をしっかり聞き学習に取り組んでいる

- 子どもの振り返りでは、90%以上の子どもが「よくできる」「大体できている」と答えています。全国大会に向けた校内研究で取り組んできた成果が出てきていると考えられます。人の話をしっかり聞くことは学習においても、日常生活においても基本となることです。学校においても、家庭においてもしっかり身に付けさせたいことです。

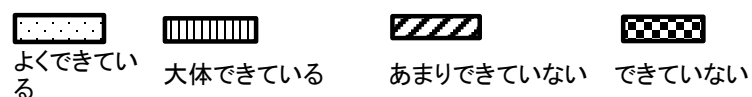
5 自分から進んで本を読んでいる

- 保護者のアンケートからも、子どもの振り返りからも前期と同じ傾向がみられました。「読書」の項目が高学年になるほど減る傾向が見られます。前期にも考察したように、高学年になるほど塾や習い事へ通う子どもが増え、学校以外の場所での読書の時間がとりにくくなるからと考えられます。また、同時にどれだけの本を読んでいるかという冊数だけでなく、その内容や時間、読書に対する姿勢など、いろいろな視点から、取り組み方を工夫する必要があると考えます。

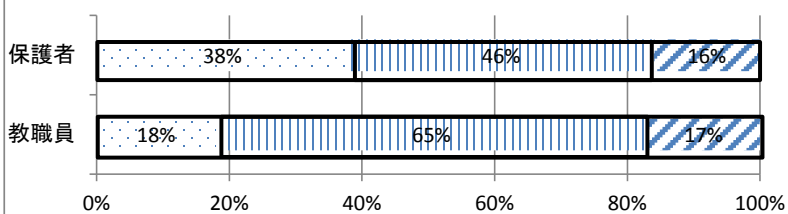
6 家で予習・復習・宿題などできている

- かなり定着してきているのは、各学級の取組や家庭での支えが大きな原動力になっているからだと思います。学校から出される毎日の宿題は勿論必ずしなくてはならないもので、全校的にはほぼ確実にできています。宿題以外の家庭学習について、その内容や、自学自習に向けて工夫されているかという点について、今以上に各家庭との連携を深めて考えていかなければならない課題と考えます。

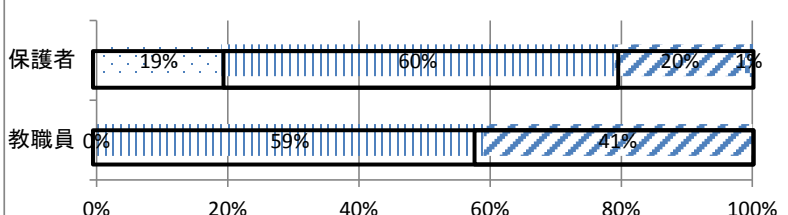
保護者・教職員による評価から



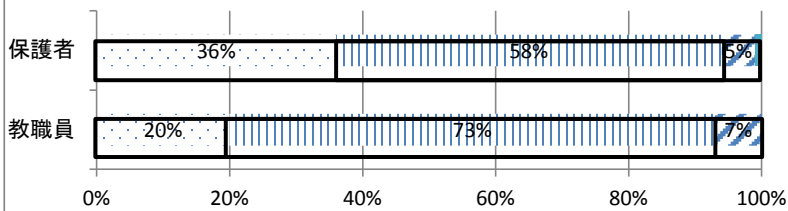
1 子どもに基礎的・基本的な学力がついている。



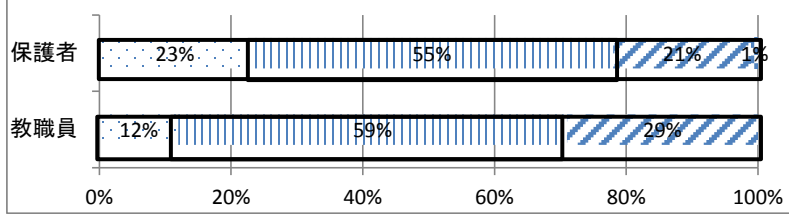
2 子どもは場に応じた挨拶ができる。



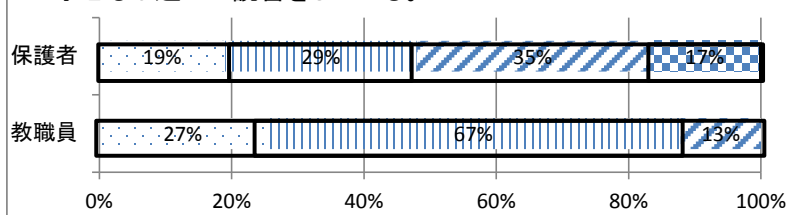
3 子どもに自分や人を大切にする心が育っている。



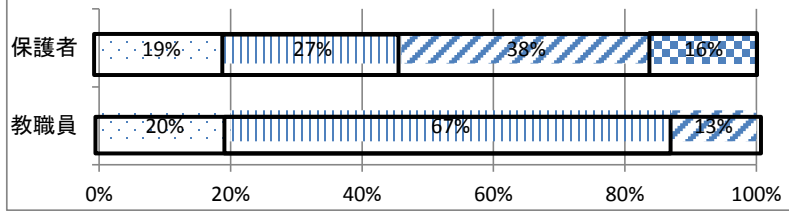
4 子どもの話を聞く姿勢は育っている。



5 子どもは進んで読書をしている。

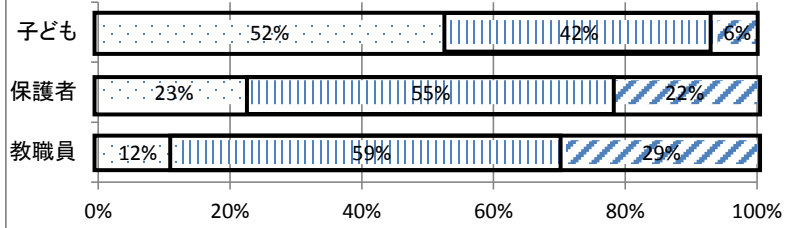


6 子どもは家で、予習・復習等を毎日している。



話を聞くことについて

7 子どもの話を聞く姿勢は育っている。



7 子どもの、話を聞く姿勢は育っている

この評価結果については前期同様、子どもの振り返りと、教職員の評価に大きな違いが表れています。大人が考える視点とは「話をしっかり聞き、自分の考えをまとめ、行動にうつす」とことと捉え、子どもは「授業中は、座って話を聞き勉強している」だから「できている」と捉えているからだと思います。人の話をしっかり聞くということは、学習においても日常生活においても基本となることです。授業中はもちろんのこと全ての生活の中で話をしっかり聞くことを課題として取り組んでいきます。

保護者・教職員の振り返り結果から

1 子どもに基礎的・基本的な学力がついているか

「よくできている」「だいたいできている」の値で保護者の皆様の評価84%、教職員の評価も83%とよく似ており、およそ学年相応の基礎的・基本的な学力をつけていると評価しています。しかし、保護者も教職員も17%ほどが「あまりできていない」と答えている現実があります。

今後も当然のことながら学校で身に付けさせなければならない基礎的・基本的な学力を保障することをめざして、日常の授業の改善や指導力の向上に努力していかねばなりません。

だれもが心を開いて、目を輝かせて勉強は楽しい、よく分かると言える学校づくり・学級づくりをしていきたいと思っています。

2 子どもは、場に応じたあいさつができる

前期同様、「自分から進んであいさつができる」「場に応じたあいさつができていいる」の項目は、他の項目に比べて「あまりできていない・できていない」と答える保護者の皆様の20%に比べ教職員の答えが41%と大変多いです。しかし、地域の皆様の声の中には「よく挨拶できている・大体出来ている」が昨年並みの評価になっています

挨拶がしっかりできる子どもに育てるには、ただ「挨拶をしましょう。」と声をかけるだけでは効果が薄いと考えられます。

児童会の『あいさつ運動』などで児童から働きかけたりしていますが取り組み方をさらに工夫していく必要があります。そして、子どもを見守る会の方々のご協力を得たり、周りの教職員・大人が模範となるよう積極的に働きかけをしていきたいと思っています。

5 子どもは、進んで読書している

保護者の皆様の評価は昨年とほとんど変わりませんが、教職員の評価はかなり上がっています。学校では、毎日の読書の時間の取組があったり、休み時間や自分の課題が終わった後に読書に取り組む姿が目立ってきました。少しの時間でも、毎日読書に取り組むことは大切なことだと考えます。今後も、家庭でも平日より時間のある土・日曜日を利用して読書に取り組むように声をかけたり、子どもたちに本の面白さ、楽しさにふれる時間を増やしたりしていく必要があるでしょう。

6 子どもは家で、予習・復習などの家庭学習を毎日している

家庭学習については、保護者の皆様の「している」「大体している」の評価が46%となり、昨年より20%も落ちています。そして、保護者の皆様の「予習・復習などの家庭学習はあまりできていない・できていない」という評価が約54%みられ、昨年よりかなり増えています。このことから、家で宿題はしていても、毎日予習・復習などはあまりしていない子どもがかなりいると考えられます。今後、その内容や進め方を紹介するなどして、自学自習のさらなる習慣化を図ってきたいと思っています。

平成26年度後期学校評価にご協力いただき、ありがとうございました。

保護者の皆様からいただきました回答の中には本校の取組を肯定的に受け止めていただいているもの、ご指摘をいただいているもの等様々な視点からのご意見や評価がありました。学校内部からはなかなか見えにくいこと、気づけなかったところ等知ることができました。

また、学校施設の改修・修繕（各教室・廊下の樹脂加工、雨漏りの改修、体育館の照明交換）や前期に引き続き、運動場のトラックやコート整備、総合遊具のセーフティマットの設置や図書室の環境整備等も継続的に進めております。

教職員の「自己評価」の結果と「子どもの振り返り」、「地域の方々の評価」「保護者の方々の評価」と合わせて、継続すべきところ、改善すべきところを明らかにして、今後の教育活動に生かしていけるよう取組を進めてまいります。今後とも、保護者の皆様と評価結果を共有し、連携していけたらと思います。よろしくお願いいたします。